

西三条第(藤原良相邸)の発掘調査 —平安時代前期の邸宅—

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

はじめに 2020年度に平安京右京三条一坊六町跡の発掘調査を行いました。この場所は、平安宮の朱雀門から南西へ500mほどの場所に位置します。隣接地での2001年度の調査では池から「齋衡四年 三條院正倉帳」の墨書がある題箋軸、2011年度の調査では池250より「三条院鈎(鈎)殿高坏」と書かれた墨書土器が見つかっています。これらの資料に基づき、この地には「三条院」が存在したことがわかり、これが右大臣・藤原良相の邸宅跡である「西三条第」にあたると思われています。

見つかった建物 今回の調査地東側では2011年度に調査が行なわれ、平安時代前期の池250(写真3)や建物が見つかっています。今回の調査でも、同時期の池750や建物(写真1・2)を検出しました(図1)。

各建物について見てみましょう。建物1と建物2は同規模で、南北に位置をずらして建て替えられたものと考えられますが、先後関係は不明です。これらの建物は池750の北側正面に位置することから、南側に広がる池を意識して建てられたと考えられます。

建物1・2西側にある建物も建て替えがあることから、計画的に配置された2棟一組の建物の建て替えと考えられます。

また建物4は、東・南庇が8尺(2.4m)、西庇が9尺(2.7m)となり、西庇は他の庇より広がっていることから、西側に広がる池750を意識して建てられたと考えられます。

池と水の流れ 池750は宅地の西部に造られた池で、検出したのはその北東肩部にあたり、2001年度に北西肩部を検出していることから、この池は北端の東西幅が約



写真1 今回の調査で見つかった建物4・池750・溝599(北から)



写真2 建物1・2 (東から)



写真3 2011年度調査で見つかった池250・溝43 (南東から)

43 mにも及ぶことがわかりました。また池750に流れ込む溝599は2011年度の調査で検出した溝の延長部にあたり、池250西側の建物の下を通り、建物4を避けるように少し曲がりながら約48 mにわたって西に向けて水を流していることが確認できました。勾配が緩やかなこの溝は、宅地内を流れる

「流れ」の意匠として造られた可能性が考えられます。

まとめ 前述したとおり、この地は藤原良相の「西三条第」と考えられており、調査の結果、邸宅には2つの池があることがわかりました。『日本三代実録』の貞観8年(866)3月23日条には「清和天皇が良相西京第に行幸す」と記

載されています。清和天皇はこの地に滞在し、これらの園池を建物から愛でたのでしょうか。

園池を眺めた主人公はさておき、この邸宅は池を中心とし、その周囲に大小の建物が配され、優雅な空間が広がっていたことは確かなことです。

(西田倫子)

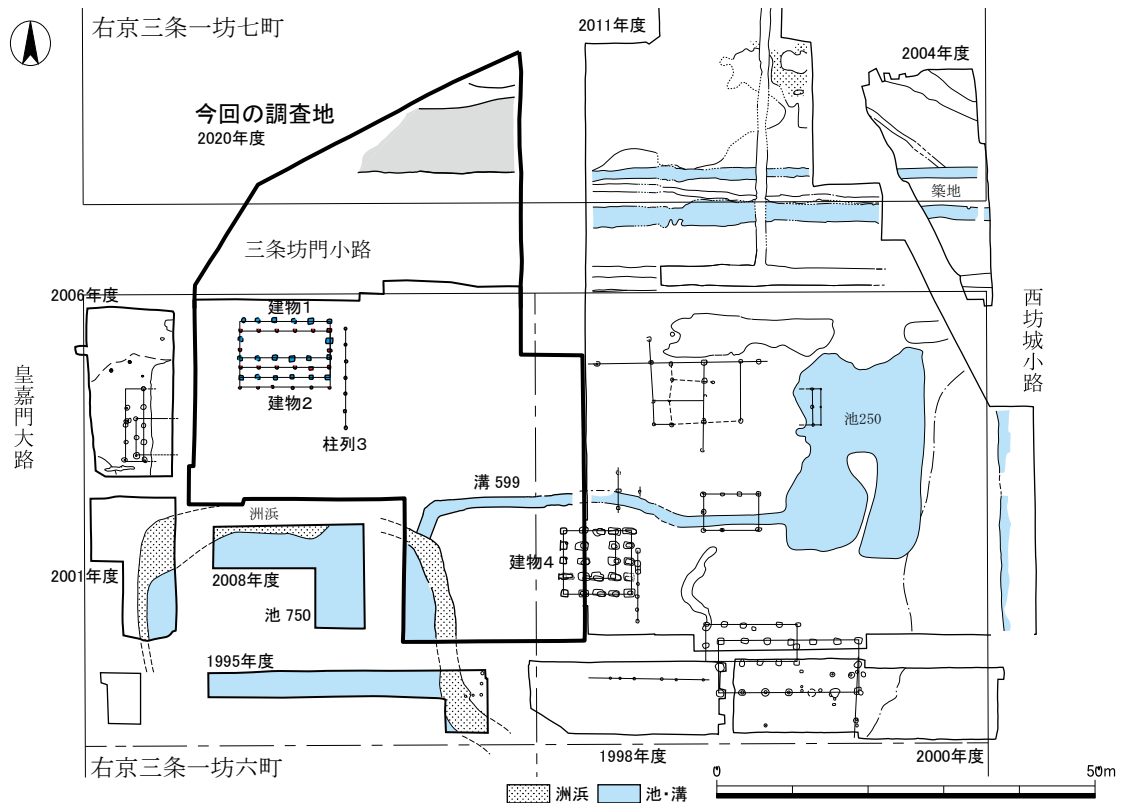


図1 遺構配置図(1:1000)